

第4章 計画の推進・進行管理

1 計画の推進

計画の着実な推進を図るためには、県民、NPO等の民間団体、事業者、教育機関、市町村等の各主体が計画の内容に理解を深め、それぞれの立場で「皆さんと一緒に取り組んでいただきたいこと」に記載しているような環境に配慮した行動等を実践するとともに、相互に連携、協働していくことが重要です。

このため、県は、市町村の協力を得ながら、広く計画内容の周知と本県の環境に関する情報の提供を行うとともに、県と各主体との協働の具体的な姿を示しながら、各主体が取り組む自主的な環境保全活動への支援や、各主体間及び県との情報共有、意見交換の機会の拡充を進めるなど、連携・協働の促進を図ります。

2 計画の進行管理

計画の目標の達成や目指す姿の実現を図るためには、施策及び事業について、成果を定期的に把握してその評価を行い、継続的に見直しを行っていくことが必要です。

このため、「施策、事業の企画立案（PLAN）」⇒「施策、事業の実行（DO）」⇒「施策、事業の実績評価（CHECK）」⇒「評価を踏まえた施策、事業の改善（ACTION）」のPDCAサイクルによって、主な施策の実施状況や指標の達成状況を点検し、適切な進行管理を行います。

さらに、これらの点検結果については、「岩手県環境審議会」に報告するとともに、環境報告書等で広く公開します。

3 指標の設定

計画の目指す姿を分かりやすく県民へ伝えるとともに、PDCAサイクルに基づく検証※に資するため、指標を設定することとします。

指標のうち、計画における目指す姿のイメージが県民に伝わりやすい指標を、7本の施策の柱ごとに「目指す姿指標」として設定します。

なお、目標値の設定については、第3章第1節「低炭素社会の構築」における「温室効果ガス排出削減割合」を除き、5年後の目標値のみを設定することとし、中間年において、改めて計画期間終了時（平成32年度）の目標値の設定を行います。

※目指す姿指標のうち、「温室効果ガス排出削減割合」、「大気や水がきれいに保たれ、自然や野生動植物を大切にしながら生活することに満足している県民の割合」、「イヌワシ繁殖率」、「本県の歴史遺産や伝統文化に誇りや愛着を持つ県民の割合」については、不確実要素の介在等の理由から、目標とする到達点の提示のみにとどめます。

